

まんざく

第五回鳴滝祭

開催される

自分たちの可能性を信じて！

鳴滝祭実行委員長 谷岡宜江

五月十七・十八日の二日間に渡り開催された第五回鳴滝祭。「新短の鳴滝祭から幸せの輪を広げたい」という実行委員全員の願いを込めた「Happy circle〜幸せ連鎖〜」というテーマを掲げました。

今年は、私たちの無限大の可能性を信じてたくさんの新しい催しに力を入れていきました。

まずは、来てくださった皆さんに新短の紹介を学科ごとに展示という形でしてもらったり、体験していただけのものを用意しました。看護学科は健康に関する研究レポートの展示。幼児教育学科は、プラ板作り・パルーンアート・プチゲーム。地域福祉学科は、足浴・ツボ押しマッサー・高齢者体験などを行いました。

次に、模擬店、展示、メインステージでの企画などに参加できなかった学生やもつと学祭を楽しみたいという学生を対象に中夜祭というものを行いました。これはビンゴや幸せの主張など学生主役のイベントとして行われました。



発行 新見公立短期大学 (岡山県新見市西方二二六三の二) ☎〇八六七―七二―〇六三四

編集 学報編集委員会



そして、岡山県内の大学で組んでいる連盟での合同企画「ぼっけえバトルシタイヤロく気合い入れろやこのやろう！〜」をメインステージで行い、その後もピンボールと「Uhh万歩」をステージ横のテントで行い、地域の皆さんにも学生にも挑戦してもらいました。その他、スタンブラリーや昨年のM-1グランプリの覇者「ますだおかだ」を迎えてのプロコンサート、神楽、沖縄旅行の当たるBigピングなど各年齢層の方々に合わせた企画も行いました。そして、昨年までは学生会館で行っていたバンドステージをメインステージで行いました。

これらの初挑戦は、不備なところもありましたが無事成功に終わったように思います。この第五回鳴滝祭は一人一人の強い思いと団結力があれば何でもできるということを身を持って私たちに教えてくれました。この鳴滝祭での学びはこれからの私たちをもっと大きく成長させてくれるものだと思います。

最後に、鳴滝祭を開催するにあたってたくさんのご支援、ご協力をいただきました学校関係者の方々、地域の方々、本当に有難うございました。そして実行委員のみんな、お疲れ様でした。いろいろと新しいことばかりで不安だらけだったと思うけどみんながしっかり者だったから乗り越えられたと思います。ほんちにみんなあつての委員長だったと思います。一緒に考えたり、ぶつかったり、喜んだりしたことは私の一生の宝物です。みんなに出会えてよかった！そして、ありがとう！



学友会執行部より

学友会会長 井上知子

私たち学友会執行部は、各学科七名（うち一年生各学科二名）の計二十一名で運営しています。活動内容としては、新入生対象の学生交流会、鳴滝祭のサポート、スポーツ大会、球技大会、クリスマス会、年二回の定例総会などです。今回から二〇〇五年に行われる「晴れの国おかやま国体」にボランティアとして新見公立短期大学からも積極的に参加できるようにサポートもしています。また、学生生活をより良いものにするためにアンケートを取り、今回の総会から学生部との話し合いの結果を報告しました。アンケートの結果、行事を増やして欲しいという意見があつたため、今年度からスポーツ大会を半日から一日に延ばしました。テストやレポート提出がある中で多くの人が参加し、今までにない盛り上がりで、他学年・他学科との交流が十分に深められたようでした。

これからも学友会執行部で力を合わせ、学生であるみなさんの声を十分に反映していきたいように、精一杯努力していきたいと思えます。



公開講座

委員長 石田純郎

新見公立短大の「公立」とは、本短大を運営している阿新広域事務組合の一市四町のことです。新見市、哲多町、哲西町、神郷町、大佐町です。今年度の公開講座は、今まで遠隔のため、短大まで来られることが困難であった四町の町民を対象に、「出前講座」、すなわち講師を各町に派遣し、各町で講座を持つ試みを行っています。

講座のテーマは各町の希望に合わせて、町ごとに異なります。すでに五月十五日に、哲多町の町民センターで、看護学科金山時恵助教授・栗本一美助手により、「清潔を保つための家庭看護」の講座を持ち、町民百名が参加され、好評でした。

第一回出張公開講座を終えて

金山時恵
栗本一美

平成十五年五月十五日に、学内で行っている公開講座を出前講座として地域に向いての講演を行わせていた。たい。

哲多町高齢者教室において、「清潔を保つための家庭看護」と題して講演し、参加者は百名を数えた。中でも男性の方の参加が多く見られ、看護あるいは介護への関心の高さを

うかがうことができたように思う。

講演では、清潔を保つために常日頃行われている「入浴の効果」などに触れた。家庭で入浴することは、皆至極当たり前にされていることではあるが、改めて入浴することの効果や留意点、工夫次第で楽しめる入浴方法等について、参加者の方の意見を取り入れながら進ませたい。

また、入浴できない方の清潔を保つ方法として「清拭」は、承知のとおりであり経験をされた方も多いと考え、家庭でできる洗髪の方法として「簡易ケリバード」の作り方を実演した。すでに作って見たという方もおられたが、家庭にあるものを工夫して作れることなどをお話することができた。

参加者は、熱心にメモをとりながら聞いてくださり、その後質問を受けることで、参加者の看護あるいは介護に対する関心の高さを改めて確認することができた。

今後、地域の方々が求めるテーマに応じた内容を、地域に向いて行うことの必要性を感じることができた。

◆「出張公開講座」今後の予定

第二回、宇野文夫本学教授「ウイイルの話」(哲西町きらめき、八月七日)。
第三回、岩崎竹彦本学助教授「暦の話」(神郷町、十月)。第四回、原田信之本学助教授「岡山の後醍醐天皇伝説」(大佐町、十月)。第五回、公開シンポジウム「新見公立短期大学の将来像」(新見商工会館、十月十九日)。

地域福祉学科

杉本清恵先生を偲んで

杉本清恵先生が、平成十三年の五月から約二年という長い闘病生活の後、本年四月十二日にお亡くなりになりました。

平成八年四月の地域福祉学科開設時に準備室の委員として関わられ、学科の創設から今日まで、在職七年という短い間ではありましたが、学科が軌道に乗るまでの先生のご尽力には感謝しなければならぬ事柄がたくさんあります。

いつも笑顔で、物静かな雰囲気であらうしやいましたが、その中には凛としたきびしさと深いやさしさを秘めておられたように思います。

また、学生に対しては、「介護」で何が大切なのかという本質について、さらに人として何を大切にすべきかということをもいつも伝えようと思われていました。

先生から、介護に限らず広くたくさんの方のことを学ばせていただいたのは、学生だけではなかつたでしょう。先生を失ったことは、とても残念で悲しいことですが、先生から教えていただいたことをこれから生かしてゆくことで、恩返しをしたいと考えています。先生のご冥福を心よりお祈りいたします。



ゼミで指導される杉本先生

ご卒業生インタビュー



松永 美輝恵

新見公立短大(旧新見女子短大)を卒業し、介護福祉士として介護老人保健施設に五年間勤務しておりました。

卒業時はまるまるとしていた体型も、就職してからは頬がこける程ハードな時期もありました。

現場では、「利用者の方に少しでも笑顔を！」をモットーに、時には女優になった気分で見守りを演じてみたり、楽しくなるような作り話をしてみたり…等、私なりに介護職を楽しんでおりました。しかし、時には悲しい出来事や自分の無力さを感じることもありましたが、そこから得たものは、私の「ケア」に豊かさをもたらしてくれました。

地域福祉学科で学んだ「介護・福祉・文化」の関連の意味は、就職してから身にしみて感じ、新見短大出身者としての誇りを感じることも多々ありました。

卒業生として、介護福祉士として、教員として、学生みなさんに介護の素晴らしさ、楽しさを伝えていきたいらと思っております。どうぞよろしくお願いたします。



絵・竹内由美

視野の広い人間になるために

一年次生 渡辺 健慈



絵・木村政絵

本学に入學してまだ僅か。しかし、その間だけでも多くの事を吸収し、その結果あらゆる物事を以前より広い視野でとらえることができるようになりました。

今の生活は、毎日必ず何か新しい事に遭遇し、色々な知識を吸収でき、自分の幅を広げています。

最近では、介護や社会福祉という觀念にとらわれず、様々な地域の文化や福祉文化を学び、最終的に福祉の中で生かそうと思うようになりました。このような考えに導いてくれた環境を提供してくれる本学に入學できたことは、実に幸運でした。

これから始まる二年間は、常に全力を尽くすことが目標で、これから経験するであろう数多くの挫折や失敗の中で、あらゆるものを吸収し、広い知識と視野を持った人間になれるように、一日一日を大切にしていきたいと思っております。

また、今までに述べてきたことは、回りの人間関係が上手くいって初めて成り立つものだから、人間関係も勉強と同様に大切にしていきたいと思えます。

幼児教育学科

教育研修センターの設立

安達雅彦

今日、我々を取り巻く社会環境は、劇的な変化を遂げようとしています。教育・保育・福祉の現場でも大きな変革期を迎え、質の高い利用者サービスを提供する環境整備が必須となつていきます。このたび、このような時代の要請にこたえるべく、現場の専門家や卒業生と、本学幼児教育学科のスタッフが共に手を携えて研修する場として、幼児教育学科教育研修センターを設立いたしました。従来から、阿新地域以外の幼稚園や福祉施設からの研修依頼は数多くあり、本学幼児教育学科のスタッフは、現場との接点を少しずつ拡大してきました。他方、阿新地域へと目を向けますと、公開講座や生涯学習など、地域に開かれた大学を目指した活動を展開してまいりましたが、残念ながら十分な成果を挙げているとはいえません。従前どおり、阿新地域以外からの研修依頼にも対応いたしましたが、このたびの教育研修センターの設立には、阿新地域の幼児教育関係の諸施設に対してお役に立ちたいとの強い思いがあるのです（早速、研修申し込みがあるとのこと、嬉しい限りです）。

さて、本年度の幼児教育学科の入学学生は第二十四期生で、卒業生数は

一〇〇〇名を超えました。今までも卒業生に対して、手紙やファクス・電話、最近ではメールなどを通じて卒業後の種々の相談に応じてきました。教育研修センターは、卒業生の研修の場としての受け皿の機能も持っています。最大限の協力をいたしますから、就職先での研修では解決できない問題があるときには遠慮なく、大いに活用してください。

全学的な研修センターの体制も視野に入れていますが、まずは幼児教育学科からスタートいたしました。地域の方や卒業生が利用しやすい環境を整備していきたいと思っております。研修内容の相談やご意見等、お気軽に連絡くださいませう、お待ちしております。

お問い合わせ先（新見公立短期大学内、幼児教育学科教育研修センター、安達雅彦・高月教恵、TEL:0671-0634/FAX:0867-72-1492 E-mail: yoKy02@nimit-c.ac.jp)

夢

一年次生 橋本奈実

誰もが持てるものではない「夢」。誰もがかなえることは難しい「夢」。今、私は夢を持っていることを誇りに思います。そして、この新見公立短期大学に入学して、「保育士」という幼い頃からの夢を叶えるチャンスが持てたことがとてもうれいのです。しかし、新しい勉強や先生方・先輩方との話の中で、多くの発見以上に私がいままで思い描いてきた

「保育士」という仕事のイメージとは全く違う内容に驚き、ショックを受けることもありました。今までの生活とは環境が大きく変わり、新見での生活は不安だらけでした。そんな中行われた大学祭は、一人暮らしの寂しさを感じないほど忙しく、様々な人との関わりの中で新見での生活の不安はなくなり、有意義な時間を過ごす事ができました。新見は何もないところです。短大も全員の名前が覚えられるほど学生数は少なく、小さいです。しかし、人は温かく、人と人との関わりはとても強いものがあります。この環境で勉強できるといことは、将来仕事に就いた時、大きく温かい心で子どもたちに接するということに役立つと思えます。

私は、夢を実現させるためにこの短大に入学しました。しかしこれから、多くの困難や迷いはあると思います。その中で、同じ夢に向かっていく仲間がいるということは、私にとって大きな心の支えです。時にはライバルである彼らとお互いに刺激し合いながらよりよい保育士を目指していきたいです。そして、夢を実現したいです。

子ども広場で感じたこと

二年次生 藤井亮子

幼児教育学科二年生は、鳴滝祭で学生会館二階で、プラバン作り・わなげ・ボール入れ・パルーンアート・巨大ボール遊びをしました。

プラバンというのは、プラスチックの板に自分の好きな絵を描いて、オーブントースターに入れて熱するだけで、ペンダントやキーホルダーができていくというものです。オリジナルのペンダントやキーホルダーを作ることができるので、子どもたちは喜んでくれるだろうと思いい、楽しみました。子どもが誤ってオーブントースターに触れないように気をつけました。自分で作ったペンダントを、嬉しそうに首に付ける姿がとても印象的でした。また、子どもだけでなく、保護者の方にも喜んでいただき、とても嬉しかったです。

パルーンアートは、想像していた以上に難しかったです。遊びに来てくれた子どもにも頼まれたものを、三十分かけてやっと作りました。他のコーナーで遊んでいたその子どもに「渡そう」と思い、行ってみると「いらぬ」と言われました。子どもの興味はすぐに変わるということを痛切に感じた一瞬でした。巨大ボール遊びでは、自分より大きなボールを転がして遊んだり、ボールの上に乗ったりして、とても楽しそうでした。ボール入れやわなげで、長い時間ずっと遊んでいる子どももいました。ダンボールや新聞紙などの身近な廃材で、子どもが夢中になる遊び道具を作ることができるということを実感しました。楽しそうに遊ぶ姿を見ることができてよかったです。将来、保育の仕事に就いたら、この経験を生かし、廃材を利用した遊びを考えたいと思います。

看護学科

ドイツ便り2003

斎藤健司



オーストリアのスキー場で
中央が指導教授のアーント・ボシュル氏

今年の一月より二年間の予定で、ドイツ連邦共和国のエルランゲン・ニュルンベルグ大学に留学しています。研究テーマは「コラーゲン遺伝子の機能解析」です。研究所が位置するエルランゲンは、ドイツ南部バイエルン州にあり、一言で言うと大学とジーメンス（松下電器のような大企業）の街です。バイエルン州はロマンティック街道、古城街道という観光の名所があるところです。どこに行っても緩やかな緑の丘と教会を中心とする街並みが見られます。また、ビールとソーセージの有名な産地でもあり、典型的なドイツのイメージです。こちらで暮らし始めた当初は、部

屋の暗さに困りました。ドイツの私たちは日本人が一見して暗いと感じる所でも平気で生活しています。日本と同じくらいの明るさの照明器具を売っている店はどこにもありませんでした。結局、業務用の蛍光灯を仕入れて自分で作りました。あとで目の虹彩に含まれるメラニン色素の量が人種によって異なるので、光のまぶしさや、色の感じ方が違うのだと知り納得しました。ほかに困ったことといえば、店の開店時間が短いということですね。ドイツはキリスト教の影響が強く、日曜日は教会に行かための休息日という位置づけになっており、大多数の店が休業します。平日も遅くても八時には閉店します。コンビニもほとんどありません。あの新見よりも不便な状況です。日本の便利なシステムに慣れている私は、彼らのリズムに合わせるのにまだ忍耐が必要です。

研究所では週末が近づくと、屋上のテラスに出てソーセージやチーズをつまみながらビールを飲んだり、近くのビール工場に行つて飲んだりしています。

大学に行ったドイツ人は英語が得意なようです。みんなとは英語で話をしていきます。それでも詳しく意思を伝えるためには、更なる勉強が必要と感じ、大学の英語の講義を受けることにしました。

講義を受けて驚いたのは、講義中にはほぼ全員の学生が自発的に質問をしたり解答を言ったりすることです。答えが間違つていても教員も学生も

一向に気にとめる様子はありません。むしろ何も発言しない学生に無言のブレッシャーがかかっていきます。一クラスが多くても二十人程度なので、何も発言しない学生は相当目立ちます。集中して聞いていないと発言できないので、一つの講義を受けるだけでとても疲れます。学生は、先生の教え方が良いと感じたら、講義の終わりに机をたたきます。ドイツの学生は拍手よりも机をたたくことのほうが多いです。

このように毎日いろいろと経験しながら異文化を吸収しています。ひとつ残念なことは本学四代学長であり、恩師でもある小田琢三先生に帰国の報告ができなくなったことです。留学直前の今年一月にお見舞いに伺ったときは、新見短大在職中の思い出を話されたり、ご自分がウイスコンシン大学に留学されたときの話をされたりと楽しい時間をすごしました。私が新見短大の現状や教え子たちが活躍している様子を伝えると、とても喜ばれて安心されていた様子が印象的でした。

私の留学期間はあと一年半あります。志のない者は見ても見えず、聞いても聞かえず。志を忘れないようにこの期間を有意義に活用したいと思います。

ベッドメイキング

一年次生 谷本真弓

初めての白衣とナースキャップを身につけると、違う自分になったよ



うで心が引き締まります。そんな思いもつかの間、看護実習室に入ると、緊張で身体が固まってしまいました。ベッドメイキングは、先生のデモを見てみると簡単そうでしたが、実際自分が動いてみると、無駄な動きが多くなり、一枚のシーツをきちんと仕上げるだけで、すっかり疲れてしまいました。

褥瘡が起らないようシワのない、崩れにくいベッドを作る。そこに闘病される方が気持ちよく体を横たえることができる。一日中そのベッドで痛みを耐え、不安を抱えながら過ごされる方のことを考えると、改めて看護師の仕事の大切さや奥深さを感じました。そして看護の道への第一歩を踏み出せたことを誇りに思いました。初心を忘れず、一つ一つの演習を真剣に取り組み、信頼される看護師になりたいと決意を新たにしました。

同窓会の コーナー

学生から元気を
もらっています！



吉備国際大学
看護学科助手
看護学科第十一期生
赤松恵美

思いがけず今回、まんさくへの寄稿を依頼されました。看護学科を卒業して早いもので、もう十年目。学生の頃、「私には看護は向かないんじゃないだろうか、他の職種にすればよかったかもしれない」と思い、悩んだ三年間でした。それが不思議なもので、経験年数を重ねる度に、看護にどっぷりつかって来ました。産婦人科病棟で、患者さんや産婦さんたちに接していく中で、多くのことを教わり、多くの元気をもらってきました。患者さんからの「ありがとう」と言う言葉は、形はないのですが一番の宝物です。それがあつたから、今日まで頑張ってきたことが出来ました。

現在、縁があつて教員として働いています。状況は少し変わりましたが、今は学生から元気をもらい、そして、周りの先生方にも助けられながら過ごしています。

杉本先生を偲んで



地域福祉学科
第一期生
那須厚子

杉本先生の講義は、いつも落ち着いた感じで緊張感のあるものだったと思います。しかし、現場での経験をふまえながらの講義内容に、興味を持って学ぶこともたくさんありました。

二年になって、私は先生のゼミを選択しました。研究の一環で、高齢者疑似体験装置を身につけていろんな体験をしたことや、先生の研究室でゼミのみんなと一緒に何時間も話をして盛り上がったことを思い出します。いつもは口数が少ない先生でしたが、ゼミではとても話し好きで、普段は見せない面白い面や、以外な素顔をその時知ることができました。

あの時の先生の笑顔はとても生き生きしていたように思います。肩まで伸びた黒髪を耳にかける仕草が今でも目に浮かびます。

私たちに多くのことを教えてくださり、また、地域の福祉でも活躍されていた先生の早すぎるお別れに、悲しみと残念な気持ちでいっぱいですが、きつと天国で私たちを見守ってくれていると信じ、心よりご冥福をお祈りしたいと思います。



大阪市保育士
幼児教育学科
第十四期生
加納さおり

卒業してからはや八年。あつという間という言葉がピッタリの八年でした。大阪市の臨時職員を二年間した後、正規職員となり七年目。現在は元氣いっぱいの子どもたちと楽しい毎日を過ごしています。でもこう思えるまでにはいろいろな事がありました。子どもの気持ち分らず悩む事も多く、「保育士」という仕事を続けていくののだろうか？と不安に思った事も何度かあったのです。

でもそんな時、新見女子短期大学で出会えた先生方や仲間たちが私を支えてくれました。温かくご指導してくださる先生方と励ましの言葉をかけてくれる仲間たちの存在がどんなに心強く有り難かつた事か……。

短大時代の二年間はとても忙しかつたけれどたくさん思い出と共にたくさん「出会い」のあつた二年間でした。これからこの出会いを、そして、子どもたち一人ひとりとこの出会いを大切に頑張っていきたいと思っています。

看護学科十四期生同窓会

平成十五年五月二十五日にホテルグランヴィア岡山で開催されま

した。千葉や鹿児島からも駆けつけた卒業生や先生方の出席で懐かしい顔ぶれがそろい、笑顔が絶えない和やかな時間が流れました。増田心子先生から、小田琢三元学長先生がお亡くなりになったこと、先生が亡くなられる前に「十四期生は明るく、パワーのあるクラスだった」と仰られていたことをお聞きしました。故小田先生を偲ぶ会にもなりました。



学生と談笑される小田先生

◆学報「まんさく」や同窓会のページについての感想や要望などがございましたら遠慮なくお知らせ下さい。
e-mail: mansaku@nimi-c.ac.jp

■在籍者数

2003.5.31 現在

	看護学科	幼児教育学科	地域福祉学科	計
1年次生	64	53	56	173
2年次生	75	56	55	186
3年次生	67	—	—	67
計	206	109	111	426

■出身都道府県別在学生数

2003.5.31 現在

府県	学科 学年	看護学科			幼児教育学科		地域福祉学科		合計
		1年	2年	3年	1年	2年	1年	2年	
福島							1		1
神奈川県	川		1						1
新潟	潟						1		1
石川	川		1						1
福井	井			1	1	1	1		4
長野	野			1					1
静岡県	岡	1			1				2
愛知	知		1	1	1	1			4
三重	重				2		1		3
滋賀	賀						1		1
京都	都		1	1		1	1		4
大阪	阪	1	2	1					4
大和	庫	19	20	11	8	9	7	9	83
和歌山	山	1	2			1			4
鳥取	取	3	1	3	5	2	4	4	22
島根	根	6	5	8	6	8	6	4	43
岡山	山	14	14	9	8	8	13	15	81
うち阿新地区		②	②	②	①	③	⑥	⑦	⑳
広島	島	4	10	10	1	4	1	2	32
山口	口	3	2	5	6	6	2	5	29
徳島	島	4	3	2	1				10
香川	川	2	2		2		4	3	13
愛媛	媛	1	1	3	6	9	3	6	29
高知	知		2	1	1	1		1	6
高松	岡	1	1	4			2	1	9
福井	賀				1				1
佐賀	崎		2	1	1	1	1	1	7
長門	本						2		2
熊本	分	2		2	1	2	3	1	11
大分	崎		1	2			1	3	7
宮崎	島	2	3	1	1	2			9
鹿児島	縄						1		1
計		64	75	67	53	56	56	55	426

教養科長・教授
地域福祉学科長・教授
図書館長・助教授

（異動）
講師

●地域福祉学科

（昇格）

（転入） 課長補佐

（新採用） 助手

（転出） 主幹

山崎 護

松永美輝恵

神原 光

藤井 敬美

桑原 一良

井関 智美

原田 信之

訃報

元学長 小田琢三先生
講師 杉本清恵先生

本学の第四代学長であり、本学および岡山大学の名誉教授、小田琢三先生が平成十五年三月十二日にお亡くなりになりました。享年七十九歳でした。
また、本学地域福祉学科講師、杉本清恵先生が平成十五年四月十二日にお亡くなりになりました。享年五十六歳でした。
小田先生は平成五年四月から五年間、本学の学長を務められ、本学の

運営に献身されました。在職中は全国公立短期大学協会の理事も務められ、平成十二年春には勲二等瑞宝章を受賞されました。小田先生は大正十二年に広島県でお生まれになり、第六高等学校から岡山医科大学を卒業後、岡山大学医学部教授、同学部学部長、同大学院医学研究科科長、岡山理科大学教授を歴任されました。顕著な業績により、結城賞（住血吸虫皮膚炎の研究）および日本電子顕微鏡学会瀬藤賞（ミトコンドリア膜および小腸上皮微絨毛膜の分子構造と生化学的機能）を受賞されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

編集後記

今回はじめて「まんざく」の編集に携わりました。その最初の仕事が、小田琢三元学長と地域福祉学科の杉本清恵先生の訃報という悲しいお知らせになってしまいました。
今回の「まんざく」を受け取られて、驚き、悲しく残念に思われる方も多いことと思います。短大の歴史も二十三年という長いものになり、うれしいことや楽しいことばかりではなく、今回のような悲しいことや残念なことも刻まれていくのだな……ということを実感させられた仕事でした。
(吉村)

編集委員

委員長
委員

原田 信之
古城 幸子
山内 圭子
吉村 淳一
東村 俊光
神原 光

◆平成十五年十月十九日(日)午後三〜五時、新見商工会館五階大会議室で公開シンポジウム「新見公立短期大学の将来像」が開催されます。ぜひご来聴下さい。